

調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4673000107
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス伊集院
所在地 (電話番号)	鹿児島県日置市伊集院町下神殿1366-1 (電話)099-272-7577
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年5月11日

【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 12 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤	人, 常勤換算 13 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	重量鉄造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	72歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道3号線より少し入った道路沿いに位置し、黄色い建物が、道行く人の目に留まりやすいホームである。明るく家庭的な室内では、利用者同士が互いを思いやり助け合う場面も多く、やさしく穏やかな雰囲気の中で仲良く暮らしている。同系列の他6グループホームとも交流し、管理者・職員ともに自己研鑽を重ねており、ケアの質向上に対する意識が高い。また、法人内の医療・福祉施設との連携もよく図っており、利用者の状況や家族の希望により適切に対処していることから、家族の安心感も得ている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 市町村との関わりについての取り組みとして、事業所側から日常的に連絡をとるよう努め、担当者との関係づくりを図り、担当者も行事に足を運んでくれるまでになっている。利用者の決定に関しては、医療連携の下でホーム再利用を十分に検討し、決定している。職員の確保については、法人内異動もなく、現在の職員状態で利用者も安定している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行政担当者や地域の代表者・利用者家族等に対して、状況報告をするとともに、行事に関することや園だよりについての意見をだしてもらい、地域の協力体制の強化を図っている。運営推進会議を開催することで、地域の方々がホームに目を向けるようになった。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会や意見箱の設置等があっても、不満や意見・苦情があまりでないため、より多くの意見を聞きだす工夫として、家族アンケートを行う予定にしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 利用者が、地域行事に参加したり、地元中学生の福祉体験を受け入れたり、また地域老人会の方々をホームの行事に招待して昼食会を行うというように、積極的に地域に関わっている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念に加え、地域密着型サービスの果たすべき役割を盛り込んだ独自の理念を職員間で検討し、作成している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念を目につきやすい場所に掲示し、毎朝、申し送り後に唱和して理念の実現に取り組んでいる。また、職員同士で日常的に「ゆっくりゆったり、けれどももしっかり」という理念を話題としている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が、運動会等の地域行事に参加したり、地元中学生の福祉体験を受け入れたり、ホームに老人会を招待する等、様々な機会を作って積極的に関わりを持つ努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように、職員全員で行っている。外部評価の意義についても理解している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、1年前から行政担当者や地域の代表者・利用者家族等の協力的な参加により開始している。行事やホームだよりに関する意見をもらい、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者がホーム行事に顔を出したり、ボランティア派遣等についての協力をくれたりと日常的に相談連絡をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	園便りや家族会・行事等で、ホーム全体の様子とそれぞれの利用者の様子について報告をしている。個人出納帳がある利用者家族には、定期的に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や第三者委員会の設置をするともに、年に一度の家族会でも意見要望を確認している。家族の意見をより多く聞きだす工夫として、「家族アンケート」を実施するよう準備中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの管理者や職員による支援の重要性を十分認識しており、やむを得ない場合を除いて、極力職員の異動がないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修や全体研修を活用している。外部での研修は交代で参加し、ホーム内勉強会は月に一度行っている。働きながら資格取得を目指す職員もおり、毎年資格取得者が増えている。	○	外部研修に参加した際は研修報告をしているが、質の向上やケアの継続性の観点から、研修記録(参加者・日時・内容等)を残すことが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内7箇所のグループホーム主任会議にて情報交換するとともに、職員も他のホームの見学に行きサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム内の相談役が認知の程度を確認し、利用に際しての説明を行い、利用者にはゆっくり慣れてもらえるよう配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の尊厳を守る努力をしながらともに過ごし、料理や野菜作り等日常生活の中で、利用者には指導をもらっていることが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で、利用者の希望や意向を引き出すように努めている。また、申し送りノートを活用して職員間の情報の共有を図っている。個人記録も細やかに整理してある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人や家族の意見をもとに、職員と話し合いながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しと毎月の評価を適切に行っており、状態変化時に備えての毎日の計測や排泄チェック表・摂取水分量等の記録もしっかりとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対し、必要時の通院支援などの柔軟な対応はもとより、地域の独居老人や老人会の方々の招いての昼食会やボランティアとの交流など、地域の方々が通える場としての機能を発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内病院が24時間体制で支援をし、医師とも常に連絡が取れる状況を整えて医療連携にあたっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携の中で「看取りに関する指針」(マニュアル)は作成しているが、重度化した場合や終末期のあり方についてのホームとしての対応については、職員間で話し合いが持たれておらず、方針の共有までに至っていない。	○	利用者の介護度が高くなりつつあり、重度化に伴う本人や家族の不安も大きくなることから、出来るだけ早期に話し合いの機会を作り、関係者全体の方針の統一を図ることが望ましい。また、方針が決定したのちは、職員が質の高いケアを提供するために、終末期に関する研修についても検討されることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大事にし、ゆっくりゆったりと支援している。園だよりの写真掲載に際しての配慮もしてある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、さりげない声かけを行っており、「したいこと」はなるべく実施するよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は能力に応じて行ってもらい、職員ととにもできることに取組んでいる。利用者と職員が同じテーブルにつき、楽しい会話の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴介助が必要な方が多いにもかかわらず、好みの入浴時間を受け入れ支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中での専門分野(菜園づくり・草取りや水やり)が楽しく出来るような支援を行い、自分で出来ない方でも楽しめるような場面作りを心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩等は適宜支援をしており、外出食事会には半年に一度の割合で出かけている。また、地域行事にも参加するよう計画に入れている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の行動パターンを把握し、鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。外出したい様子が見られる利用者には、一緒に散歩してまわるなどの対応を心がけ、安全面にも配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防火訓練のほか、昼だけでなく夜間を想定した避難訓練を行っている。また、地域の消防団と連携をとり、緊急時、速やかに協力依頼できるような体制作りができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	人工透析をされている方もおり、全体として法人内の栄養士の指導のもと栄養管理をしている。食事及び水分摂取量を把握し、個別の記録を残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾等があり、玄関から居間にいたるまで家庭的でくつろげる空間となっている。和室には自在鉤や懐中物があり、好みの場所で心地よく過ごすことが出来ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾品のほか、テレビや冷蔵庫なども自由に持ち込んでおり、それぞれの大切な物品に囲まれて居心地良く暮らせるように支援している。		